みのかも文化財ノート

No.5
発行　2009（平成21）年3月31日
編集　美濃加茂市教育委員会教育部文化振興課（みのかも文化の森）
〒505-0004　岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299－1
TEL 0574－28－1110　FAX 0574－28－1104
みのかも文化の森H.P. http://www.forest.minokamo.gifu.jp/
2009.3.31

美濃加茂市教育委員会では、市内に残る貴重な文化財の保存・保護活動ばかりでなく、調査・普及活動を行っています。みのかも文化財ノートは、市内の文化財に関連した様々な事業を紹介するものです。

しらべる・つたえる

史料を残し整理すること

美濃加茂市民ミュージアムでは、平成20年12月から翌2月にかけ「蜂屋柿その歴史と人々展」を開催しました。蜂屋柿は時の権力者に好まれ、江戸時代では岐阜の鮎鮨と並んで尾張藩献上品としてその地位を確立しました。

江戸時代、献上行為により蜂屋村は諸役免除の特典を得ていました。しかしながら、献上に対する諸役免除も藩の事情などにより必ずしも安泰というわけではなく、村はさまざまな手法、論理でそれを保持しようとしました。

柿は江戸時代の蜂屋村の歴史そのものであり、柿を媒介にした村と藩の関係、人々の意識の変化を、断片的ながら紹介することができたかと思います。

今回の展示では、蜂屋の瑞林寺の古文書がその基本的史料となりました。瑞林寺には、寺関係の記録のほか蜂屋四村での柿に関する史料が多く残されています。本来であれば村々ごとで保管されるべき史料が寺に預けられて保存されていることは、寺が蜂屋四村を包括する中核的存在であったことを意味しているものと考えられます。これらはいずれも「公文書」として、多くが1通ずつ包紙でつつまれ、「御證文箱」に収められていました。今から約35年前に「美濃加茂市史」が編纂される段階で調査され、今回はその作業をもとにしつつ、改めてその確認と写真撮影を行いました。

展示中の襖下張り文書

展示中の瑞林寺文書

近世から近代にかけ、襖（ふすま）を作る際、その下地に不要になった紙を張り足していくことがよくありました。一般的に土地や財産に関するものは大事に残されますが、むしろ生活に密着したいわゆる「雑多」なものについては、そのような使途に使われている例が旧家などで多くみられます。それらは手控帖であったり、買物帖であったりで、ほとんどが断片という状況です。しかしそれらは先人の生活そのものであるわけで、公文書からは窺い知れない世界を伝えるものでもあります。史料的には公文書も生活に関する断簡史料も優劣をつけるものではありません。

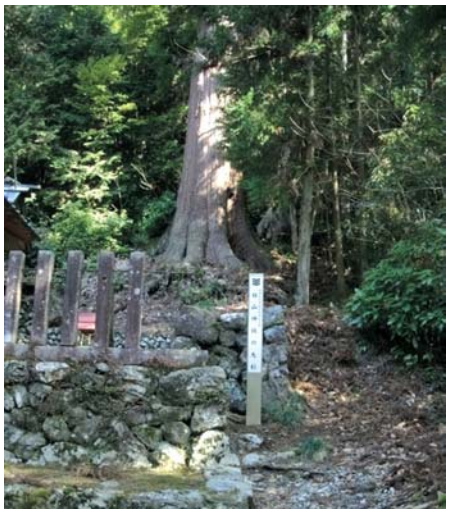
今回の展示ではそのような「襖下張り文書」もあわせて展示し、「史料が残るということ」を来場者に考えていただくきっかけにしようとしました。

美濃加茂市民ミュージアムでは、寄託されている古文書を含め江戸時代の史料を多く保存しています。しかしながら、目録化などが施されているのはその一部でしかありません。地道な作業ですが、文書の残り方を問わず、少しずつ史料整理を進めていきたいと考えています。

ひろめる

市指定天然記念物 白山神社の大杉

三和町廿屋の白山神社には、境内を見下ろすようにそびえ立つ、大きな杉があります。1960（昭和35）年3月15日に美濃加茂市指定天然記念物とされた「白山神社の大杉」は、樹齢約700年と考えられており、目通りは約6.2mあります。今年度は老朽化した文化財標柱の取替えを行いました。



白山神社の大杉（三和町）

まもる

文化財防火デー

昭和24年1月26日、奈良法隆寺金堂が焼損した日を教訓に、昭和30年から同日を「文化財防火デー」として、全国的に文化財防火運動を展開しています。文化財を火災などの災害から守ることを目的とし、文化財を管理する方だけでなく、地域の方々や消防署をはじめとした関係機関の協力を得て実施しています。

今回は、重文旧太田脇本陣林家住宅の消火訓練や太寧寺（加茂川町）など5カ所の立入検査を行い、消防署からの指導を受けました。

消火訓練（旧太田脇本陣林家住宅）

まもる・しらべる

埋蔵文化財の保護

平成20年度は、美濃加茂市開発事業指導要綱に基づく1,000㎡以上の開発計画が39件、砂利及び岩石採取協議会で協議対象となったものが7件、その他埋蔵文化財包蔵地の照会が146件ありました。そのうち、試掘確認あるいは工事立会について意見及び対応したものが46件あり、埋蔵文化財の保護に関する指導等を行いました。

そのうち御門町1丁目では、新しく発見された上畑A地点遺跡について、発掘調査が行われました。

弥生時代後期を中心とする土器が、周溝に残された様子のわかる竪穴住居、中世前期に構築された土坑墓と考えられる遺構などが検出され、古代・中近世にかけての遺物も出土しています。

現代、宅地を中心に広がるこの地域では、これまで古墳がいくつか知られていたものの、過去の人々が生活した集落の様子は、あまりわかっていませんでした。近年、野笹遺跡（野笹町～御門町2丁目あたり）のように、現在の木曽川に間近の、河岸段丘の最も低い部分で展開した集落の様子が、ようやくわかりつつあります。今後の周辺における調査の進展が期待されます。

弥生土器の出土

碗や小皿が埋納された土坑